

2016.9 清心児童/予想問題1

日本の児童の貧困率が先進国の中で最悪のレベルにまで上昇している。これは何を意味しているのだろうか。その背景は何か、また、どんな解決方法が考えられるか。あなたの意見を含め、600字以内で述べよ。

日本の児童の貧困率の上昇は、2つのことを意味していると考える。

第一に、日本の社会保障制度に綻びが現れ始めているということだ。欧州には、保育所から大学まで授業料が無料で、在学中の生活費や教科書代なども奨学金という形で無償化している国が少なくない。しかし、日本では義務教育として中学校までで授業料や教科書が無償となっているにすぎない。それ以降の高等教育では、大きな負担が保護者にのしかかる。高等教育においても公的な支援を拡大していく必要があると考える。

また、母子家庭が増加が児童の貧困率を押し上げている。日本では子どもの17人に1人が母子家庭で育っている、という調査結果もある。そして、多くの母子家庭の母親がパートや契約社員、派遣社員など非正規労働者として働いている。非正規労働者は一人で生活するのも厳しいのに、子育てをしながら、仕事に励み、家事をこなすのは大変な苦しさだ。このように児童の貧困率の背景には、雇用環境の整備や児童福祉の充実など社会保障制度が十分に機能していない兆候が見え隠れしている。

第二に、児童の貧困は個人の能力を伸ばし、活かす機会を奪われている可能性があることを意味する。憲法は、国民は「個人として尊重される」と規定している。しかし、費用が払えないというだけで大学で専門教育を受ける機会を失うとすれば、それは「個人として尊重される」社会と言えるだろうか。また、若者が個人の能力を伸ばしきれないということは、社会の次世代の担い手を十分に育てていないことを意味しないだろうか。

児童の貧困率の上昇は、教育格差を通して拡大再生産される。いま大胆に制度設計をして貧困を生み出す構造を変革しなければ、社会全体が貧困の悪循環に陥ることになるだろう。